



Racing Specialities

保存版

IXV ツアークロスV

取扱説明書

Version 2.0



ご使用前に必ず本書をお読みください

本書はヘルメットの使用方法、お手入れ方法、使用上の注意を説明しています。正しくご使用していただくため、最後までよくお読みください。また、本書はいつでも読み返せるよう、大切に保管してください。万一、本書を紛失された場合は、弊社『品質管理課』までお問い合わせください。製品の改良などにより、お客様に予告なく仕様の変更を行う場合がありますのでご了承ください。

本書の各図記号は以下のような意味を表しています



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いと思われる事項であることを示しています。



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、ヘルメットを破損させ、安全装備としての機能を低下させる可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

本製品は日本国内仕様です、国外では使用しないでください。尚、他国には各々の国で必要となる法律、規格等が定められており日本国内仕様である本製品は適合していません。

安全のため、守って頂きたいこと

このたびアライヘルメットをお求めくださいましたことを、心より感謝いたします。私共は日本で最も長い歴史を誇るヘルメットメーカーとしてその歴史に恥じぬヘルメットを作り、より多くの方々の安全を守る為に努力しております。しかし、私共が努力して作った製品といえども、いかなる事故にも絶対という訳ではありません。ヘルメットは万一の際に危険の度合を減らす装備の一つであり、安全の一要素にすぎません。ヘルメットの着用に際しては以下の注意事項をよくご理解いただき、常に安全を心がけて運転されますよう、お願いいたします。

▼ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。

安全のためには、「自分の頭にピッタリ合ったサイズのヘルメットをかぶる」ということがとても大切です。緩すぎたりキツすぎたりしてヘルメットのサイズが自分の頭に合っていないと、ヘルメットは安全性能を十分に発揮することができません。下記の「試着のポイント」を参考にヘルメットをお選びください。



- ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。ヘルメットは同じサイズ表示であっても、オープンフェイスやフルフェイス等タイプが異なると、かぶった際のフィット感も異なります。
- ヘルメットをかぶった状態で頭を前後左右に振っても、頭の動きに対してヘルメットがワンテンポ遅れずにしっかりと追従すること。
- ウレタン素材等の進歩によって、「少しきつめを選んでおけば、使っているうちに馴染んで緩くなる!」といった事は、最近ではあまり期待できません。サイズ選びの際にはヘルメットをかぶった際の内装のフィット感が全体的に均一であり、尚且つ頭部に部分的な締め付けや圧迫などを感じないサイズのヘルメットをお選びください。



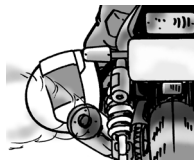
▼あご紐は正しく締めてください。

転倒した際、頭に受ける衝撃の方向は予想することができません。ある時はヘルメットを脱がすような方向から衝撃が来るかもしれません。そんな時、ヘルメットを頭にしっかりと固定しておくのがあご紐の役目です。ヘルメットをかぶっていても、あご紐を正しく締めていなければヘルメットをかぶらない状態と同じです。ヘルメットをかぶる時には必ずあご紐を正しく締めてください。



▼ヘルメットの持ち運びには注意！

ヘルメットホルダーにヘルメットを吊り下げたまま走行すると、ヘルメットと車体との干渉により車体可動部の動きを妨げるおそれがあります。そして、ヘルメット本体や車体とヘルメットを繋いでいるあご紐も傷つけるおそれがあります。また、ヘルメットを持ち運ぶためにヘルメットの窓に腕を通したり、あご紐で腕に吊り下げて運転するのもオートバイの操縦に支障をきたしますので絶対におやめください。



▼あご紐（ストラップ）のコンディションにご注意ください。

あご紐は安全の要です。短くて硬いアゴ髭と長時間接触したり、路面等の硬いものと擦れたり、ライディングジャケット等の襟部分の面ファスナーなどに触れると繊維が徐々に千切れてあご紐に毛羽立ちが生じます。あご紐に毛羽立ちやほつれが生じた場合は、穴あけ等の改造や転倒による痕跡がなければ、弊社アフターサービス窓口にてお預かりによる交換修理を承ことができます（修理対象モデルに限ります）。弊社ホームページ〈修理受付フォーム〉より、ご確認いただきお申込みください。

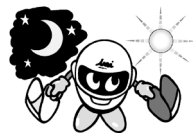
※あご紐の修理代金とヘルメットの往復送料は、お客様のご負担となります。



あご紐が毛羽立ったままでヘルメットを使い続けると、ほつれが進行してあご紐が次第につれて（ひきつつ）変形してしまいます。変形したあご紐では装着時の締め付けが不十分だったり、衝撃を受けた際にDリングから抜けるおそれがあり大変危険です。

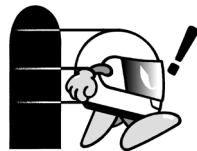
▼走行条件に合ったシールドをお選びください。※シールドを装備したヘルメットに限りです。

周りが暗くなってきたにも関わらずスモークシールドのままで走行すると、視界が悪化し状況判断し難くなり大変危険です。長距離ツーリングなどで夜間も走行する場合は、光線透過率が70%以上のアライヘルメット純正クリアーシールドに交換してください。尚、外したシールドは傷を付けないようにご注意ください。



▼走行中の急激な環境変化に注意する。※シールドを装備したヘルメットに限りです。

走行時におけるヘルメット内の温度は、ほぼ一定ですが、ライダーは高速度で移動しているため周辺環境（気温・湿度）は常に変化しています。そのため、峠道などの高低差が生じる道路、または突然の雨やトンネルに入った（出た）瞬間、ヘルメット内部と周辺環境の急激な温度変化により、シールド面（外面か内面かは状況によって変わります）に結露（露付き現象）が発生し、急激に曇ってしまう場合があります。このような状況が予想される時にはシールドを微開にしておき、予めシールド内外の温度差を少なくしたり、安全を確保できる走行スピードに調節するなどの注意が必要です。



▼ヘルメットを塗装する際の注意。

ヘルメットを塗装する際は、以下の点にご注意ください。まず、ヘルメットの表面を食器洗い用中性洗剤で洗い、汚れや油分を落としてから800番程度のサンドペーパーで表面を研磨します。尚、ヘルメット内の衝撃吸収ライナ（発泡スチロール製）は塗料に含まれる溶剤によって溶けてしまい衝撃吸収性が失われてしまいますので、塗料が染み込まないように入念にマスキングしてください。ヘリ部分、ホック類、ネジ孔なども同様にマスキングして、ご使用になる塗料の説明書にしたがって塗装を行ってください。但し、乾燥時に50℃以上の熱を必要とする塗料はご使用できませんのでご注意ください。尚、ホルダーやダクト等の樹脂成型パーツの塗装は、必ずポリカーボネート樹脂用の塗料と溶剤をご使用ください。



▼ヘルメットの高温乾燥は厳禁！

ヘルメットを50℃以上の熱に曝すと素材に変形や変質が生じ、ヘルメットの性能を大きく損ないます。ヘルメット全体、または取り外した内装を、業務用乾燥機・ドライヤー・ストーブ・各種ヒーター類・電子レンジ・オーブン・各種バーナー、トーチ類・直火などで絶対に乾かささないでください。また、衣類乾燥機、洗濯乾燥機による内装の乾燥も、その乾燥温度が50℃以上に達する場合は使用をお止めください。



▼ヘルメットの改造は厳禁！

ヘルメットの基本構造は頭を何らかの物質と空間で覆い、頭を保護するものです。安全性を高める為には、より多くの物質、空間が必要となり、したがって安全性の代償として僅かとはいえ視界・聴力・運動性が損なわれる可能性があります。例えば、ヘルメットをかぶると音が聞こえにくく感じる例があげられます。これは周波数の高い音がクッション材などによって吸収されることによって音質が変化するためで、通常の会話などの周波数音はほとんど吸収されません。このことをご理解いただければ、ご支障なく運転ができます。また、帽体に聴音孔をあけると衝撃吸収性能が低下するだけでなく、かえって風切音が大きくなり聴力を妨げる原因となります。帽体や発泡スチロールに孔をあけたり、削ったりするのはおやめください。



▼衝撃を受けたヘルメットは再使用できません！

ヘルメットは衝撃を受けると、その一部が壊れることで衝撃を吸収して頭を守るように作られています。したがって、かぶった状態で衝撃を受けたヘルメットは、例えば表面に大きなキズ等が見られなくても衝撃吸収のプロセスによって内部構造が破壊されています。一度でも大きな衝撃を受けたヘルメットは継続して使用せず、弊社品質管理課まで事故の状況説明と共にヘルメットをお送り頂き、再使用可能かどうか検査を依頼されるか、新しいヘルメットをご購入ください。※ヘルメットの検査自体は無料です。ヘルメットの往復送料のみ、お客様のご負担となります。



▼走行時のヘルメット操作は危険！

オートバイで走行中、シャッターの開閉等の操作を行うにはハンドルから一時的に手を離さなければならず、その結果オートバイの運転に支障をきたすおそれがあります。ヘルメットの操作は停車時に行ってください。但し、シールドやサンバイザーの開閉は視界の確保などに必要なので、この限りではありません。



▼ヘルメットをミラーに引っ掛けしないで！

バックミラーにヘルメットをかけると、ミラーの角でシールドが傷付いたり、衝撃吸収ライナが変形するおそれがあり、変形したライナは衝撃吸収能力に少なからず影響を及ぼします。また、ヘルメットの上に腰掛けるのも厳禁です。ヘルメット裾部のエッジモールを傷付け、それをきっかけにエッジモールが剥がれたり、割れたりしてヘルメット裾部が露出するおそれがあります。帽体の裾部は硬いので、それを保護しているエッジモールが無いと転倒時に首や肩など身体を傷つけるおそれがあります。



▼長期間ご使用の場合は樹脂成型パーツの点検及び交換を行ってください。

ヘルメットに使用されている樹脂成型パーツ類は、日々の使用による可動部の磨耗や紫外線による素材劣化が生じます。不意の破損を防ぐために定期的な点検を行ってください。特にシールドベースやそれを取り付けるためのネジ、ホルダーやワッシャー類などはとても重要なパーツですので、亀裂や磨耗、破損を発見した場合は、パーツの交換を早急に行なってください。



▼ヘルメットの性能は永久不変ではありません。

ヘルメットは日々の着用に伴い、ヘルメットを構成する素材の老朽、劣化などの経時変化によって、新品時と同じ性能を維持できなくなる場合があります。現在ご使用中のヘルメットに特に不具合が見られなくても、SGマーク※の有効期限である三年を目安に、そのヘルメットの着用を開始した日から数えて三年以上経過したヘルメットは買い替えをお勧めします。※（一財）製品安全協会のSG被害者救済制度



▼ヘルメットを不安定な場所に置かないで！

オートバイのタンクやシートなど平面でない滑りやすい場所にヘルメットを置くと、ヘルメットが落下するおそれがあります。ヘルメットは中身が空っぽの状態では1m以下からの落下であれば、性能に大きくは影響しませんが※、落下時にヘルメットの部品が破損した場合、そのまま使用すると走行中に部品が外れたりするおそれがあります。部品が破損した時には、速やかに新しい部品と交換してください。

※例え1m以下からの落下であっても、同一箇所に複数回衝撃が加わった場合はヘルメットの性能が損なわれます。



▼ペットの近くにヘルメットを置かないで！

ペットの活動範囲にヘルメットを置かないようにご注意ください。ペットがヘルメットをおもちゃにして、噛んだり、転がしたり、引きずり回したりする場合があります。また、齧^{げっしるい}歯類の場合には内装生地やウレタン製のクッション材を巣作り（寝床）の材料にするために齧り取ったりしてヘルメットを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットから外れた部品などをペットが誤飲するおそれもありますので十分ご注意ください。



▼ヘルメットの製造年月日について

ヘルメット内面に貼られる検査ラベルに最終検査を行った日付が、そのヘルメットの製造年月日としてスタンプされています。尚、ヘルメットに付属の印刷物（シールドラベルや取扱説明書など）に表示される数値等は印刷物の管理コードであり、ヘルメットの製造年月日とは関係ありません。

※製造年月日「190708」の場合は、2019年7月8日となります。



▼偏光レンズを使用したサングラス・保護メガネ等のご使用について

シールドは、ポリカーボネイト樹脂を原料とする「金型射出成形」と「平板の熱曲げ」の二種類の製造方法があります。しかし、いずれの方法においても成形時に少なからず残留応力が発生します。その残留応力によるシールドの分子量の変化が偏光レンズによって虹色の模様となり、シールド越しの風景が見え辛くなります。この事をご理解いただき、偏光レンズの使用はお控えください。

▼ベンチレーションダクトについて

- ベンチレーションダクトは両面テープやネジでヘルメットに固定されています。無理に外そうとすると、ヘルメット本体やベンチレーションダクトが破損するおそれがあります。
- トップケース等ケース類にヘルメットを収納する際は、ケース内部（特に天井部）とヘルメットとの間に隙間があるかどうか確認を行ってください。この隙間が十分確保されていない場合、ケースの蓋をつよく閉じた際、ヘルメットに打撃が加わりベンチレーションダクトを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットを取り出すきっかけとしてダクトの開口部などに指をかけないでください。
- 暑い日に、ケース類にヘルメットを長時間収納すると、内部温度の上昇によってベンチレーションダクトを固定する両面テープの接着力が低下して、ズレや剥がれが生じるおそれがあります。また、ヘルメットの収納部がマフラーに近い場合も内部温度の上昇によって同様のトラブルが生じるおそれがあります。

▼つや消し塗装のヘルメットについて

- つや消し塗装のヘルメットのお手入れに、アルコール・ガソリン・ベンジン・灯油・シンナー系の溶剤等は絶対に使用しないでください。付着した汚れは水やぬるま湯を少量含ませた軟らかい布で拭き取ってください。この時に表面を強くこすると部分的なつやが生じてしまいますのでご注意ください。もし汚れが落ちない場合は、中性タイプの台所用洗剤を水で薄めてご使用ください。
- つや消し塗装面を消しゴムで強くこすると、塗装面に部分的なつやが生じますので使用しないでください。また、コンパウンド（研磨剤）や、コンパウンドを含むワックス等でヘルメット表面を磨くと、塗装面に部分的なつやが生じますので使用しないでください。
- つや消し塗装の性質上、各種塗料・インク・ボールペン・油性 / 水性マーカーなどが付着した場合、きれいに落とす事ができません。付着させないように十分ご注意ください。

▼蛍光色のヘルメットについて

蛍光色のヘルメットは、直射日光に長時間晒した場合、紫外線の影響で退色（色あせ）するおそれがあります。着用後のヘルメットは直射日光が当たらない場所に保管してください。

エマージェンシータブについて

エマージェンシータブとは、救護者が傷病者のヘルメットを脱帽させる前段階として、脱帽時の抵抗となる頬パッドの除去をスムーズに行うことを目的としたシステムです。救護者は、頬パッドのカバー等に縫い付けられた目印（E Tポイントラベル）で傷病者の着用するヘルメットがエマージェンシータブに対応している事を認識できます。



E Tポイントラベル

※モデルによって意匠は異なる



エマージェンシータブによる頬パッドの除去は、当システムを十分に理解した上で、ヘルメット脱帽の訓練を経験した救護者によって行ってください。尚、事故状況や傷病者の状態によっては、エマージェンシータブが頬パッドの取り外しを確実にこなう有効な手段とならない場合があります。

ヘルメットの裾カットについて

裾カットがハイパーカット（鎖骨を避けるように湾曲させた裾カット）のヘルメットを平面上に置くと左右にグラグラする傾向がありますので、ヘルメットを棚などに置く際には十分ご注意ください。



シールドカラーの選び方



晴天

晴れの日、陽射しや路面の照返しによる眩しさを軽減するスモークシールドがお勧めです。

※スモークシールドは、周辺が十分に明るい時間帯に限りご使用ください。



曇り・雨

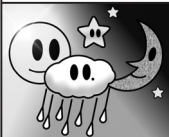
曇りや雨天の走行には、クリアーシールドがお勧めです。

※アルコール成分を含む撥水剤（自動車窓用）はシールド素材を侵し、破損させるおそれがありますので絶対に塗らないでください。



夕方・夜

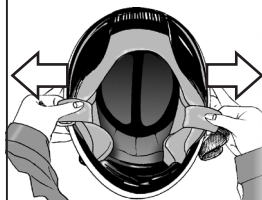
夕方や夜にはクリアーシールドをお勧めします。ツーリングなどで走行が夜間にも及ぶ場合は、日没前に安全な場所で停車して、昼用シールドからクリアーシールドに交換してください。



全天候

朝→昼→夜、晴れ→曇り→雨と、走行条件が日々刻々と変化する通勤通学、配達業のライダーにはライトスモークシールド・セミスモークシールドがお勧めです。

FCSを採用したヘルメットのかぶり方

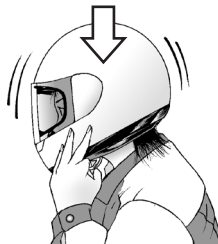


FCSは頬パッドが下まで回りこんでいるため間口が狭くなっています。あご紐をしっかり持って左右に広げると間口が広がり、ヘルメットがかぶりやすくなります。

※ヘルメットを脱ぐときも同様に、あご紐を左右に広げると脱ぎやすくなります。



ヘルメットは真上からではなく、額から先にかぶります。このようにすることで前髪が目の前に垂れ下がりにくくなり、同時に耳たぶの折れも防げます。



天井パッドが頭に触れるまであご紐を下に引っ張り、ヘルメットの位置を整えます。最後に、あご紐を締めればヘルメットの装着完了です。



Racing Specialities

ツアークロスVの特長

頬部は、市販の通信システムヘルメットアクセサリーの取り付けをより安定させる帽体形状となっています。



TX-V EP システム内装

海外市場で高い評価を受けているアライの固定内装の優れたかぶり心地を着脱式内装でも再現すべく開発されたフルシステム内装は、長時間の走行でも違和感のない心地良いフィッティングを実現。

TX-V EP システムパッド

FCSを取り入れたシステムパッドは、ウレタンパッドを支える【バックプレート】の持つスプリング効果によってアゴ下まで包み込むことで深いかぶり心地を与えます。また、このプレートの変形作用によってヘルメットの着脱もスムーズに行うことができます。

①デルタダクト6

外気をヘルメット内部へ導きます。

②フロントロゴダクト

額部分に備わったフロントロゴダクトにより、外気をヘルメット内部へ導きます。

③AR スポイラー

ARスポイラーは、ダクト内の三ヶ所の排気口から、ヘルメット内部にこもる熱気の排出を行います。

④マウスシャッター

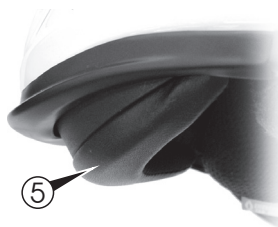
口元とシールド方向に外気を導く、スライド方式のマウスシャッターを採用。

⑤可動式エアロフラップ

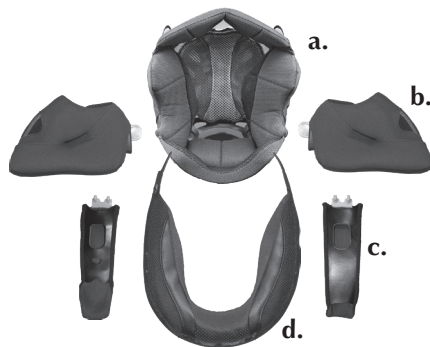
走行時のヘルメット下部を流れる空気を整え、風の巻き込みを抑えます。

⑥エマーゼンシータブ

エマーゼンシータブとは、救護者が傷病者のヘルメットを脱帽させる前段階として、脱帽時の抵抗となる頬パッドの除去をスムーズに行うことを目的としたシステムです。緊急時に救助者が使用します。



当取扱説明書の39ページにおいて、通信システム取り付けについてのご案内を行っています。



TX-V EP フルシステム内装

a.TX-V EP システム内装

b.TX-V EP システムパッド

c.TX-V EP ストラップカバー

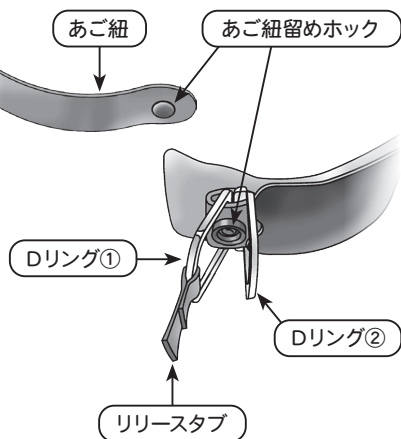
d.TX-V EP システムネック

目次	ページ
安全のため、守って頂きたいこと	2 ~ 10
A あご紐の正しい締め方	14 ~ 15
B シールドの開閉	16
C マウスシャッターの操作	17
D フロントロゴダクトの操作	18
E デルタダクト6の操作	18
F ARスポイラーの操作	19
G エアロフラップの操作	19
H ノーズディフレクターの着脱	20
I バイザーの角度調節	21
J 各スタイルについて	23
K バイザーの着脱	24 ~ 25
L シールドの着脱	26 ~ 29
M シールドベースの着脱	30
N システムパッドの着脱	34 ~ 35
O パッドカバーの着脱	36 ~ 37
P システム内装の着脱	40 ~ 41
Q ヘルメット内装サイズの調節	43
R ストラップカバーの着脱	44 ~ 47
S システムネックの着脱	48 ~ 49
T ヘルメットのお手入れ	50 ~ 51
U オプションパーツリスト	52 ~ 53
内装生地のコットン化について	53

A あご紐の正しい締め方

あご紐を正しく締めていない場合、万が一の際にヘルメットの安全装備としての機能が十分に発揮できません。当ページを良くお読みになり、あご紐を正しくご理解いただきますよう、お願いいたします。

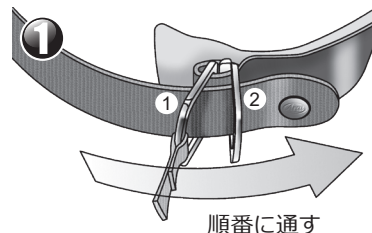
あご紐の各部名称



1. 二つのDリングに通す

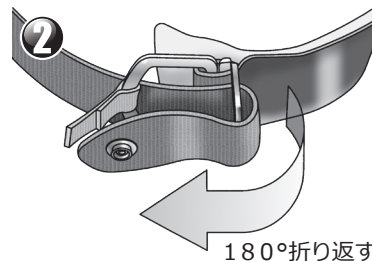
あご紐を、Dリング①→Dリング②の順に通します。

※あご紐を通す際には、途中でねじれさせないようにご注意ください。



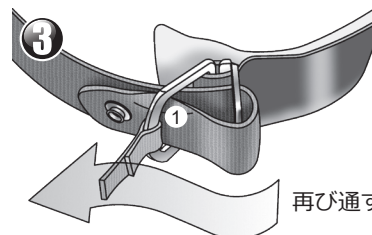
2. あご紐を180°折り返す

二つのDリングにあご紐を通したら、あご紐の先端を軽く引っぱってゆるみを取り除きながら180°折り返します。



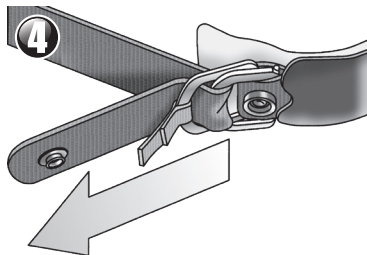
3. Dリング①に再び通す

折り返したあご紐の先端を、Dリング①に通します。



危! 険

あご紐を正しく締めていない場合、転倒時の衝撃でヘルメットが脱落し、死亡または重傷を負う危険性があります。

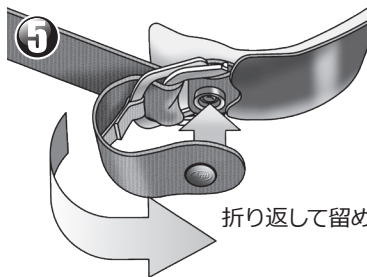


4. あご紐を引っばる

あご紐の先端部を持って矢印の方向に引っばると、あご紐が締まります。

あご下とあご紐の間に指を1～2本差し入れて襟元を直すように左右に動かしても、指の背が常にあごに触れる位が適切な締め具合です。

※人差し指と中指の一番太いところが直径2cm未満の方は指二本で、それ以上の方は、人差し指一本で確認しましょう。



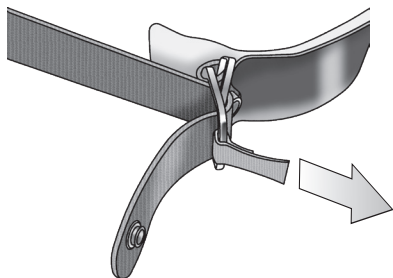
5. 余った先端部を留める

余ったあご紐の先端を、あご紐留めホックで留めることで、あご紐の風によるバタ付きや、襟元の面ファスナーへの付着を防止できます。

あご紐が乗車服やレインウェアなどの襟元の面ファスナーに付着すると後方確認の際に首の動きを妨げるおそれがあります。また、あご紐が面ファスナーへ付着すると毛羽立ちの原因になります。



折り返して留める



リリースタブの使い方

あご紐留めホックを外し、リリースタブを摘んで矢印の方向に引っばると、あご紐を簡単に緩めることができます。



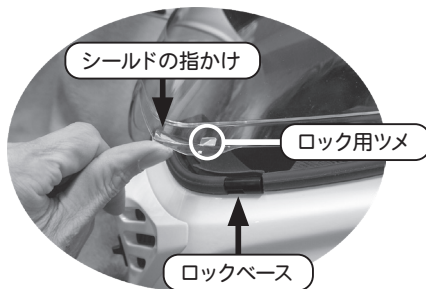
あご紐を【あご紐留めホック】で留めただけの状態であご紐を持たないでください。
【あご紐留めホック】が外れてヘルメットが落下して破損させるおそれがあります。



B シールドの開閉

① VAS-A MV シールドの開き方（シールドロックの解除）

シールドを開くには、シールドロックの解除を行う必要があります。【シールドの指かけ】の下に指をかけ、少し外側に広げながらシールドを上げると、シールドロックの解除とシールドオープンが同時に行えます。



② VAS-A MV シールドの閉め方（シールドロックの作動）

【シールドの指かけ】の上に指をかけ、止まる位置まで下ろすとシールドは、**シールド側のロック用ツメがロックベースに引っ掛かってロックされます。**シールドを外側に広げる動作（ロック解除）を行わずにシールドを上げてみて、もしシールドが開くようであれば再度シールドを下ろして確実にロックさせます。



シールドロックが不完全な状態で走行すると、風などの外圧によってシールドが不意に開いてしまい危険です。

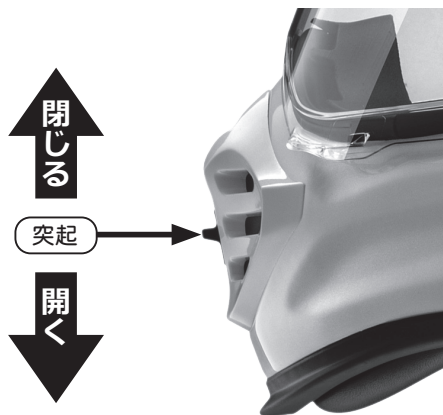


ロックの解除の動作を行わずにシールドを無理に開くと、ヘルメット側のロックベースが破損します。

C マウスシャッターの操作

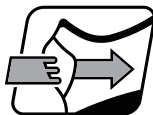
TX-V マウスシャッターの開閉

シャッター中央の突起を引き下げるとシャッターが開き、突起を上げるとシャッターは閉じます。



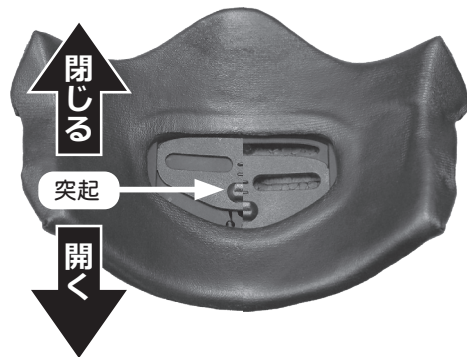
Introduction Mode

マウスシャッター・インナーシャッター両方のシャッターを開くと【イントロダクションモード】となり、流入した空気は口元に導かれます。



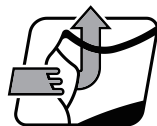
インナーシャッターの開閉

センターパッドの内面に設けられたインナーシャッターは、シャッタープレートの突起を引き下げるとシャッターが開き、突起を上げるとシャッターは閉じます。



Defrost Mode

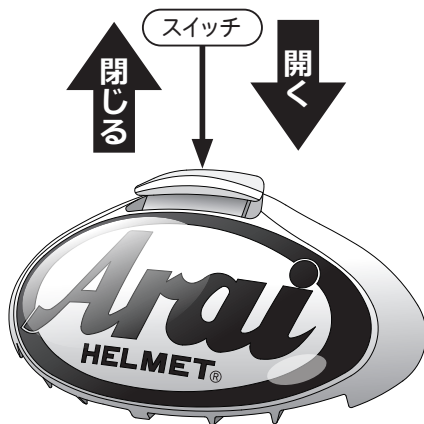
インナーシャッターのみ閉じると【デフロストモード】となります。流入した空気はシールド内面に向けて吹き出してシールドの曇りを軽減します。



D フロントロゴダクトの操作

フロントロゴダクトは【吸気ダクト】です。

ダクト上部中央のスイッチを押し下げるとシャッターが開き、外気がヘルメット内に流入します。スイッチを引き上げるとシャッターが閉じて外気の流入は止まります。



※図は、シャッターを閉じた状態。

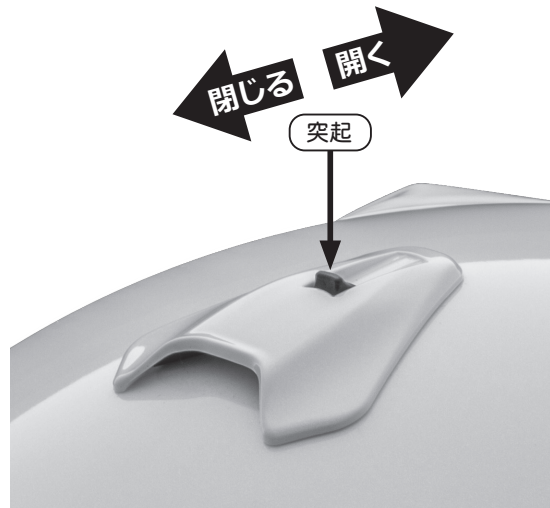
雨天時は吸気側ダクトのシャッターを全て閉じてヘルメットをご使用ください。尚、シャッターを閉じてても水や空気を完全には遮断できませんので、予めご了承ください。



E デルタダクト6の操作

デルタダクト 6 は【吸気ダクト】です。

ダクトのシャッター操作は、スイッチの突起をスライドさせて行います。突起を後方に移動するとシャッターが開き、突起を前方に移動するとシャッターは閉じます。



※写真は、シャッターを閉じた状態。

F ARスポイラーの操作

AR スポイラーは【排気ダクト】です。

AR スポイラー背面のスライドスイッチの突起を、後方にスライドさせるとシャッターが開き、前方にスライドさせると閉じます。



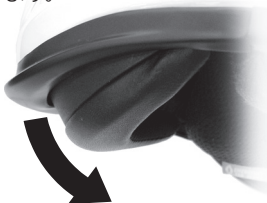
ARスポイラーは、三カ所の排気口よりヘルメット内部の空気を排出します。



G エアロフラップの操作

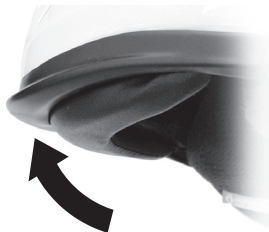
フラップの展開

フラップ下部中央を摘まんで、矢印の方向に引き出します。



フラップの格納

フラップ下部中央を、矢印の方向に指で押し上げます。



ESチンカバーV（オプション）を取り付けることも可能です。



フラップを止まる位置以上に無理に引き出すと、フラップが脱落するおそれがあります。尚、ヘルメットの着脱時や持ち運ぶ際には、エアロフラップを内部に格納してください。

H ノーズディフレクターの着脱

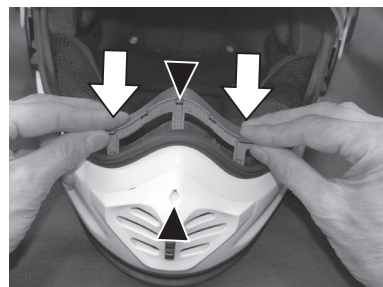
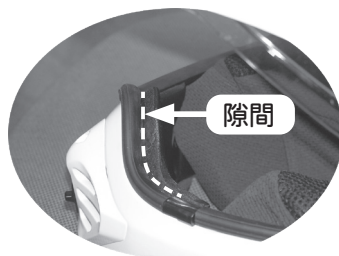
VA ノーズディフレクターの外し方

VA ノーズディフレクターは、端をしっかりと掴んで引き上げると取り外すことができます。



VA ノーズディフレクターの付け方

VA ノーズディフレクターは、窓ゴムとセンターパッドとの隙間に差し込みます。ノーズディフレクター中央とヘルメットの中心を合わせ、フックを奥までしっかりと差し込んでください。



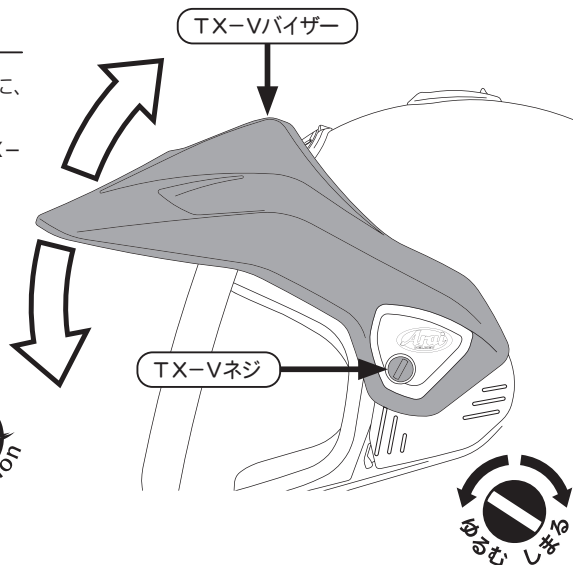
ノーズディフレクターは、呼吸がシールドに直接当たらないようにブロックする効果があります。



1 バイザーの角度調節

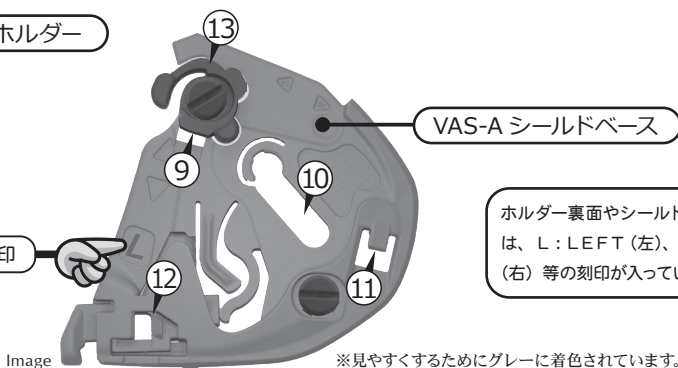
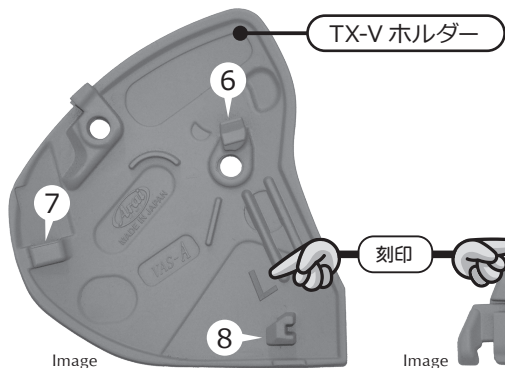
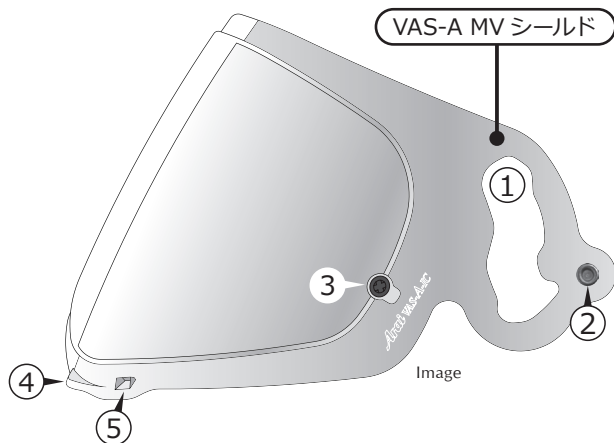
左右のTX-Vネジを五百円硬貨で一回転ほど回して緩めます。次に、ヘルメットをかぶってTX-Vバイザーを好みの位置に動かします。そして、バイザーを動かさないようにヘルメットを脱いで左右のTX-Vネジを締めてください。

ネジを緩めずにバイザーを無理に動かすと、バイザー表面に擦り傷が付くおそれがあります。



VAS-A 構成パーツ各部名称

VAS-A MV シールド	①	シールド・ガイドレール
	②	シールドピン
	③	ピンロック用留め具
	④	シールドの指かけ
	⑤	シールドロック用ツメ
TX-V ホルダー	⑥	ホルダーツメA
	⑦	ホルダー受けB
	⑧	ホルダーロック
VAS-A シールドベース	⑨	ベース受けA
	⑩	シールドピン・ガイドレール
	⑪	ベースツメB
	⑫	ホルダーロック受け
	⑬	シールドベースの軸



ホルダー裏面やシールドベース表面には、L: LEFT (左)、R: RIGHT (右) 等の刻印が入っています。

※見やすくするためにグレーに着色されています。



Ⅰ 各スタイルについて

ADVENTURE



シールドとバイザーを同時装着した、アドベンチャータイプのモーターサイクルに適したアドベンチャースタイル。

VAS-A MV シールド	使用する
TX-V ホルダー	
TX-V バイザー	
TX-V バイザーワッシャー	
TX-V バイザーネジ	

OFF-ROAD



シールドの代わりにゴーグル装着を前提とした、オフロードバイクに適したオフロードスタイル。

VAS-A MV シールド	使用しない
TX-V ホルダー	使用する
TX-V バイザー	
TX-V バイザーワッシャー	
TX-V バイザーネジ	

ON-ROAD



バイザーを取り外した、オンロードバイクに適するオンロードスタイル。

VAS-A MV シールド	使用する
TX-V ホルダー	
TX-V バイザー	使用しない
TX-V バイザーワッシャー	使用する
TX-V バイザーネジ	

K バイザーの着脱

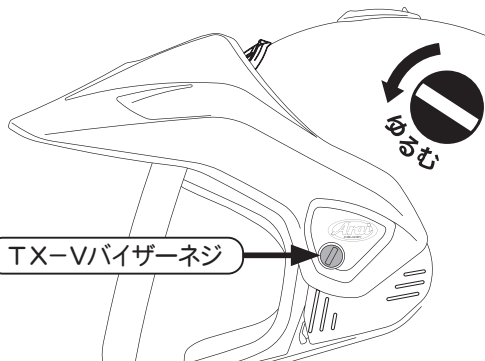
TX-V バイザーの取り外し

TX-V バイザーワッシャーを固定しているTX-V バイザーネジを五百円硬貨で回して、左右とも外してください。すると、TX-V バイザーワッシャーと共にTX-V バイザーも外すことができます。

ネジ紛失の恐れがありますので、
十分ご注意ください。



TX-V バイザーネジ



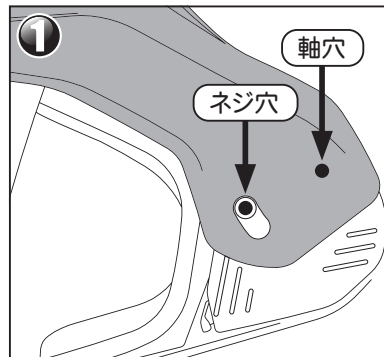
TX-V バイザーの取り付け

① TX-VホルダーにTX-Vバイザーをあてがいます。その際、TX-Vホルダー側に設けられた【ネジ穴】と【軸穴】を合致させます。

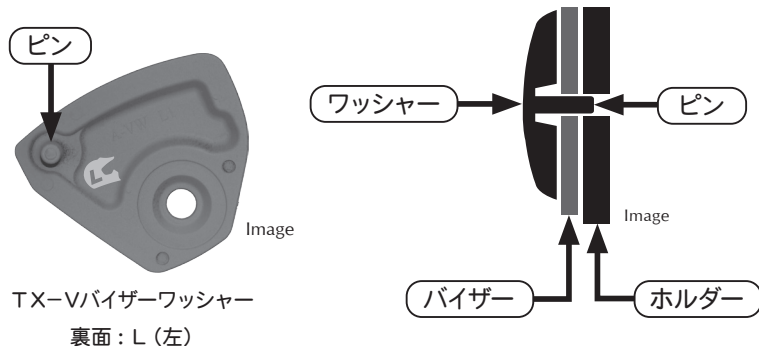


ここでTX-Vバイザーを取り付けない場合にはオンロードスタイルとなりますが、TX-VバイザーワッシャーとTX-Vバイザーネジは必ず取り付けてください。尚、軸穴はバイザーを上下する際の回転軸になります。

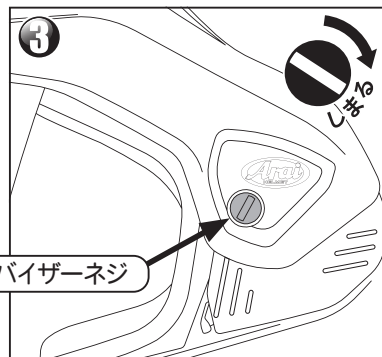
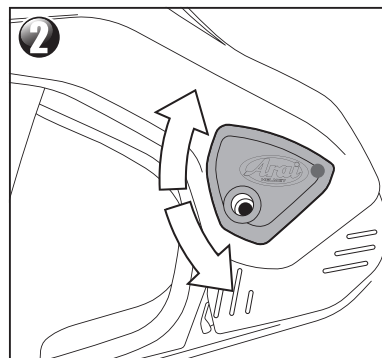
ON-ROAD



③TX-VバイザーワッシャーをTX-Vバイザーにあてがいます。その際、軸穴にTX-Vワッシャー裏面のピンを差し込み、TX-Vバイザーワッシャーの前方を上下させTX-Vホルダーのネジ穴に合わせます。



③TX-Vバイザーネジを取り付けますが、ネジは最初に手で回して、しっかりと噛み合っているのを確認してから五百円硬貨で締め付けます。反対側も同様の手順で取り付けを行ってください。



ネジ穴の破損のおそれがありますので、ネジの締めすぎに十分ご注意ください。



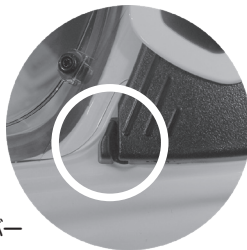
L シールドの着脱

VAS-A MV シールドの外し方

① VAS-A MV シールドが止まる位置まで、シールドを上を開けます。



② TX-Vホルダーの前方に見えるVAS-Aリリースレバーを、矢印の方向に押します。



VAS-Aリリースレバー



③TX-Vホルダーは【二ヶ所のツメ】と【ホルダーロック】でシールドベースに固定されているので、下向きに少しスライドさせるとTX-Vホルダーを外すことができます。TX-Vホルダーは左右とも外しておいてください。

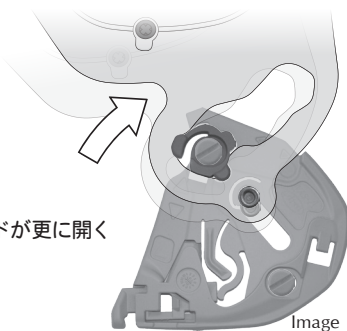


TX-Vホルダーに、TX-Vバイザーが付いた状態では、TX-Vバイザーの広がろうとする反発応力が生じるので、シールドの着脱時にはご注意ください。



④左右のTX-Vホルダーを外すとシールドへの可動制限が解除されるので、シールドが止まる位置まで更に上へ開けます。この止まった位置が【シールド着脱ポジション】となります。

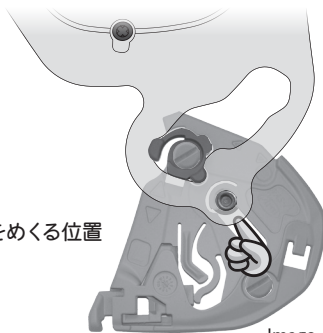
シールドが更に開く



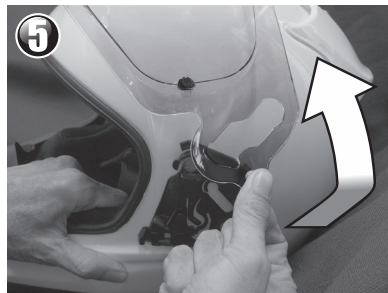
Image

⑤【シールド着脱のポジション】のシールドは、シールドベース側にフック留めのようにはまっているだけなので、シールドピンの下側に指を掛け持ち上げるとシールドベースからシールドを取り外すことができます。

シールドをめくる位置



Image



アライヘルメットのホームページでは、シールドの着脱方法を動画配信しています。

反対側も同様の手順で取り外しを行いますが、既に取り外しを行った側のシールドピンがヘルメットに接触しないようご注意ください。



◀動画配信QRコード

※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。通信料はお客様のご負担となります。予めご了承ください。

VAS-A MV シールドの付け方

① VAS-A シールドベース上に設けられた【シールドベースの軸】にシールド・ガイドレールの下側をはめ込みます。そして、シールドピン・ガイドレールの最上端にシールドピンを合わせてパチン!とはめ込みます。反対側も同様の手順でシールドの取り付けを行ってください。

収まっている

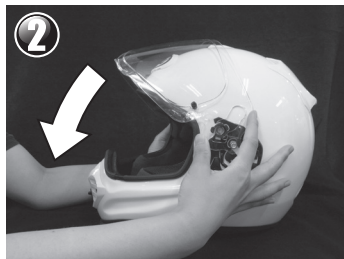
シールドピンを最上端に合わせる

ここを押す

Image



② シールドベースから外れないように、シールドを押さえながら止まる位置まで下げます。この時、【シールドベースの軸】のツメニヶ所とシールドベースの一部がシールドの上に被さっていて、シールドピンがシールドピン・ガイドレール内にきちんと収まっていることを確認してください。



4点のチェックポイント!

2. シールド上に被さる

1. シールド上に被さる

3. シールド上に被さる

4. ピンがレールに収まる

Image



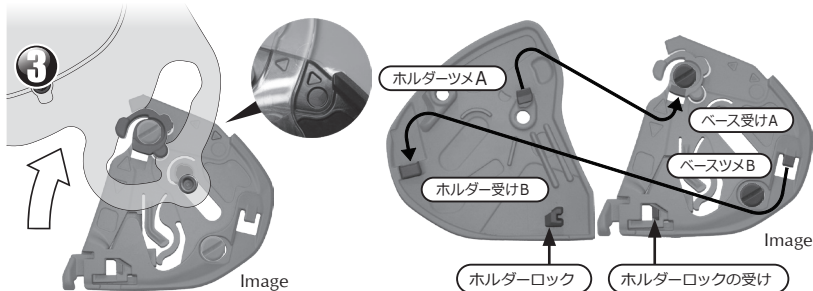
ここでシールドを取り付けない場合、オフロードスタイルとなります。29ページの④にお進みください。

OFF-ROAD



③シールドを一旦、途中で止まる感触が生じる中間位置（シールドベースの三角の目印の辺り）まで開けます。

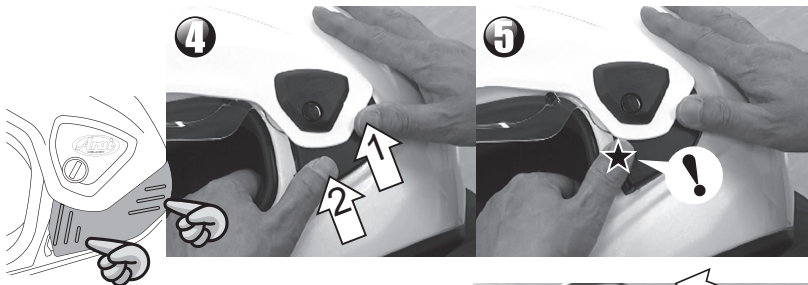
次の作業ではホルダー内面の【ホルダーツメA】と【ホルダー受けB】を、シールドベースの【ベース受けA】と【ベースツメB】に引っかけます。



④ホルダーの滑り止めの上に両手の親指を置き、シールドベースの少し下（3ミリ程）に重ね、後ろ側から先にはめ込むイメージで矢印の方向に押し上げてニヶ所のツメをはめ込みます。

⑤ホルダーロック★の部分）を押し込み、ベース側のホルダーロックの受けにはめ込むと、ホルダーは固定されます。

滑り止め



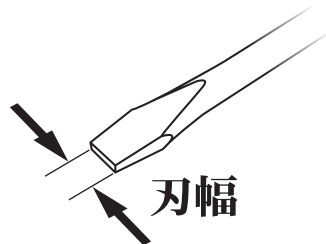
⑥反対側のホルダーも同様の手順で取り付けを行ってください。最後にシールドを数回上下させ、正しく取り付けられているかどうか確認を行います。ホルダーとシールドベースのニヶ所の【ツメ】がはまり込んでいない場合、ホルダーとシールドベースの間に隙間が生じますのでご注意ください。

シールドやホルダーの取り付けが不完全な場合、走行中に外れるおそれがあります。必ず動作確認を行ってからヘルメットをご使用ください。



M シールドベースの着脱

■シールドベースは通常のご使用では外す必要はありませんが、シールドベースの交換を行う場合は以下の説明をご覧ください。尚、刃幅約7mmのマイナスドライバーを予めご用意ください。※製品にマイナスドライバーは付属していません。



VAS-A シールドベースの外し方

VAS-A シールドベースを固定している片側二本ずつのネジを、マイナスドライバーで左に回して取り外します。

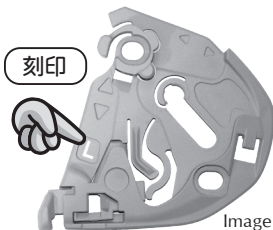
VAS-A シールドベースの付け方

VAS-A シールドベースの左右を刻印で確認し、予め付けておいた目印に合致させてヘルメットに取り付けます。

ネジは初めに手で右に回し、確実にネジ穴に入っていることを確認してからマイナスドライバーで回し、止まった位置から四分の一回転未満が締める目安です。ネジの締め忘れや締めすぎには十分ご注意ください。シールドベースの取り付けが完了したら目印は除去してください。

シールドベースはシールドの密着性を高める調節が施されています。シールドベースを外すとその調節がリセットされてしまいますので、外す際は予め目印を付けておいてください。

※粘着力の弱いテープ類や、容易に消せる水性ペンをご利用ください。尚、つや消し塗装のヘルメットには水性ペンは使わずに、テープ類をご使用ください。



L : 左 / R : 右



目印にテープ状の付箋を使用した例

シールドベースの位置調整による、シールドの密着具合の最適化

■作業にあたり、刃幅約7mmのマイナスドライバーを予めご用意ください。

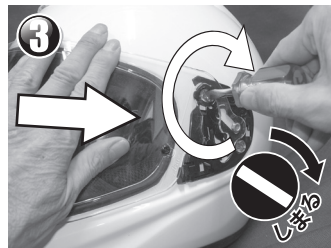
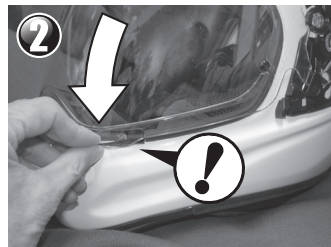
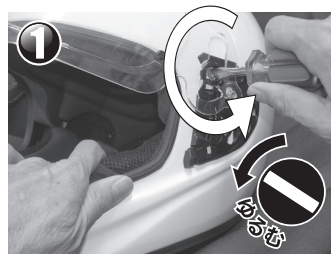
※製品にマイナスドライバーは付属していません。

①リリースレバーを操作して左右のホルダーを外します。(本書26ページを参照) その後、シールドベースが自由に動かせる程度にマイナスドライバーを使って全てのネジを半回転ほど緩めます。

②シールドの指かけに指をかけて、カチッと止まる位置(ロック完了位置)まで確実にシールドを下げてください。

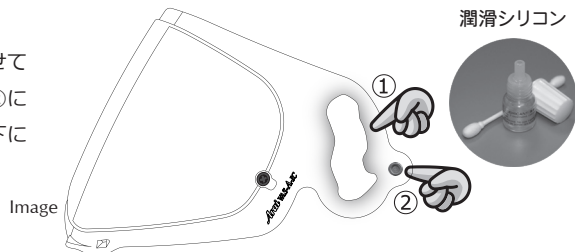
③シールドを手のひらでシールドベース側に押し、シールドの内面が窓ゴムに密着するようにしてネジを締めます。この作業を左右に行ってからシールドを半開にして、左右のホルダーを取り付けます。(本書29ページを参照)

シールドベースの着脱や交換を行ったり、標準装備のシールドとは異なる種類のシールドに付け替えた際、ヘルメットへのシールドのアタリ(密着具合)がきつく、または緩くなってしまう場合があります。そのような時には、当ページでご案内する「シールドベースの位置調整による、シールドの密着具合の最適化」を行なってください。



シールドの動きが渋くスムーズでない場合は

一旦シールドを取り外し、市販の綿棒に潤滑シリコンを少量含ませてシールドガイドレール①と内側に突き出たシールドピンの軸周り②に塗布します。その後、シールドをヘルメットに取り付けて数回上下に動かして潤滑シリコンを十分に馴染ませてください。



窓ゴムへの潤滑シリコンの塗布

上の作業と並行し、市販の綿棒に潤滑シリコンを少量含ませてヘルメットの窓ゴムのシールドに触れる部分にも、右写真で指さす白い点線の範囲に塗布してください。反対側も同様に行ってください。





Racing Specialities

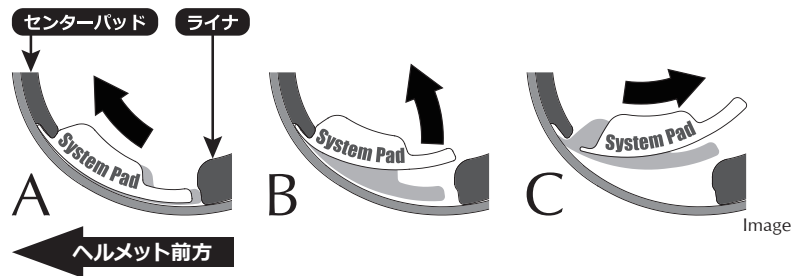
N システムパッドの着脱

TX-V EP システムパッドの外し方

■予め、左右のスピーカーベースを外しておきます。(本書39ページ参照)

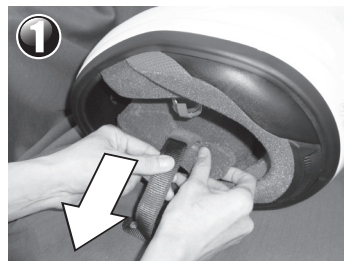
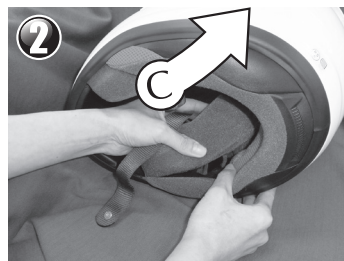
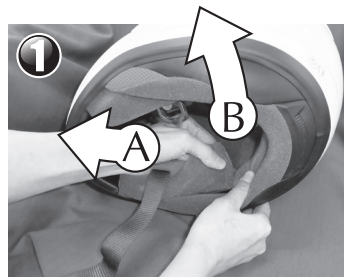
①システムパッドを掴み、センターパッド側に押し付けてライナへの引っかかりを解除します。(下図A)そして、システムパッドの後方を持ち上げます。(下図B)

②システムパッドの後方が外れたら、斜め後方に抜き取ります。(下図C)



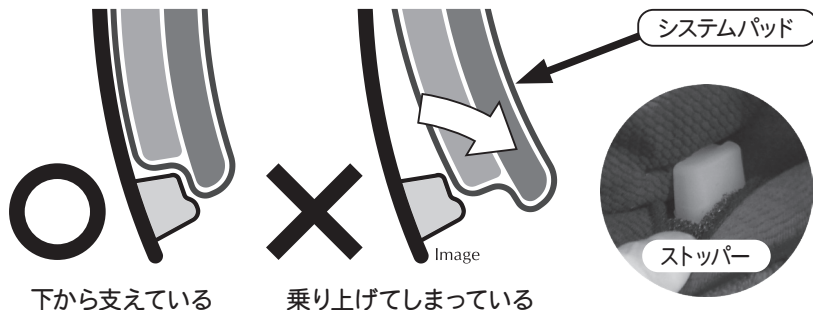
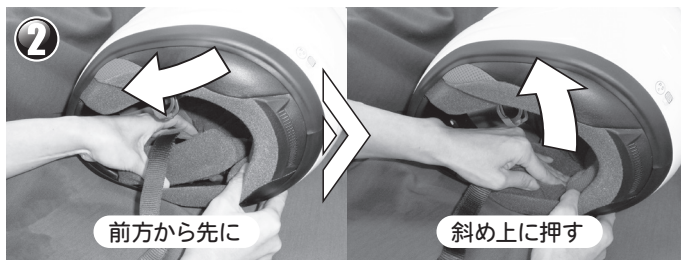
TX-V EP システムパッドの付け方

①システムパッド裏の表示ラベルで左右を確認し、取り付けを行う側のシステムパッドの中央の穴に予めあご紐を通しておきます。そして、あご紐を引っばって弛みを取り除きます。



②システムパッド前方のツメから先にヘルメットにはめ込みます。センターパッドの隙間にシステムパッド前方のツメを奥までさし込みます。そして、システムパッドの後方を、ヘルメット側へ斜め上に押し付けてはめ込みます。

③【ストッパー】はシステムパッドの後部を下から支えます。このストッパーにシステムパッドの発泡スチロール部分が重なって乗り上げていない事を確認してください。



■最後に、左右のスピーカーベースを耳部分の丸いくぼみに形状を合わせて貼り付けます。

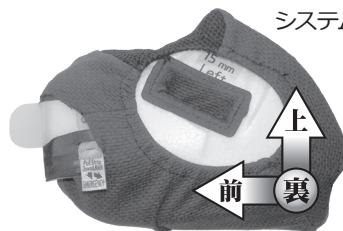


システムパッド中央の穴にあご紐を通さないでシステムパッドを取り付けると、あご紐の機能が損なわれて危険です。また、システムパッドを付けずにヘルメットを着用するのも大変危険です。

システムパッド各部名称



システムパッドの向きについて



システムパッドは、肌に接する側が表です。



○ パッドカバーの着脱

パッドカバーの外し方

①後部より先にパッドカバーを外し、その後全体を外します。

②パッドカバー裏面のストッパー（あご紐の通る穴の、四角く固い部分）を持ってパッドカバーを引き出します。引き出す際には、パッド本体（発泡スチロール製）を壊さないようにご注意ください。



パッド本体は熱や変形に弱いデリケートな素材で構成されているので、やさしく手洗いしてください。取り外したパッドカバーは、洗濯機で洗うことができます（洗濯ネットの使用を推奨）。



パッド本体の表示



パッドカバーの表示



必ず、同じ方向の表示ラベル
をペアにしましょう。



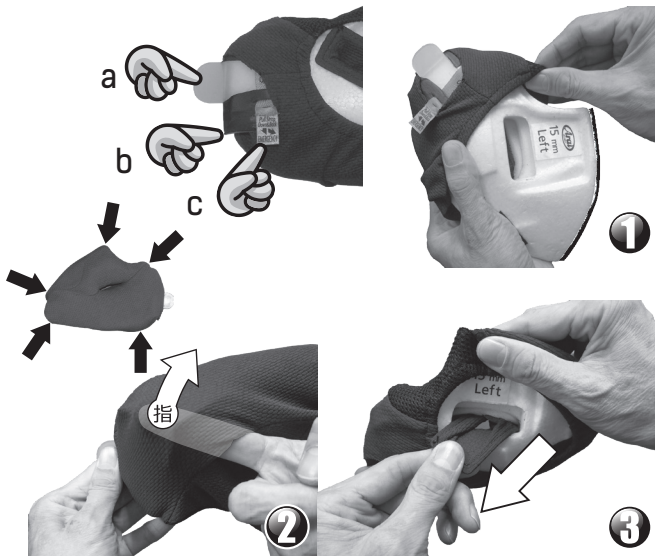
パッドカバーとパッド本体には、左（L：Left）右（R：Right）がラベルやシールによって表示されています。

パッドカバーの付け方

①同じ方向のパッド本体とパッドカバーを用意して、前方からパッドカバーをかぶせます。この時、パッドカバー前方の穴からパッドのツメ【a】とパッドの角【b】とエマーゼンシートタブ【c】が出るようにパッドカバー位置の調整を行い、位置が整ったら後方部分にもパッドカバーをかぶせます。

②パッドカバーをかぶせた直後は、ウレタンパッドの角がパッドカバーに押されて丸まっています。このままではかぶり心地に影響するのでウレタンの角を出す作業が必要となります。ウレタンパッドの角を出すには、パッドカバー表面の中央の穴に指を入れ、矢印で示した部分のパッドカバーを指先でグイッと引っ張り上げます。すると、パッドカバーとウレタンフォームとの間に空間ができ、ウレタンの角が回復します。

③パッド本体の中央の穴にストッパーを縦向きに通し、パッド本体裏面の窪みに収めます。



エマージェンシータブについて

エマージェンシータブが引き出されている場合は、タブを止まる位置まで引っ張り上げます。そして、引っばってできたループは、パッドカバー裏面とパッド本体の間に収めます。



エマージェンシータブが周辺物に引っ掛かるおそれがあります。エマージェンシータブを引き出したままで使用するはお止めください。

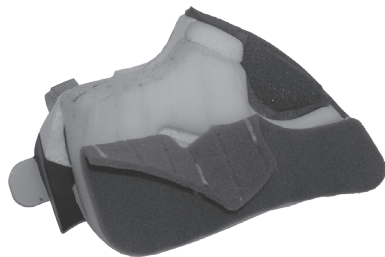


調節パッドについて

システムパッドには、剥がして厚みを変更できる【調節パッド】が予め取り付けられています。この調節パッドを取り除くことでパッドの厚みを5mmほど薄くでき、フィット感を緩くすることができます。

調節パッドの取り除き方

システムパッドからパッドカバーを外し、一番上に貼られている調節パッドを剥がします。このパッドは本体パッドにストライプ状に部分接着されているので容易に剥がすことができます。調節パッドを剥がし終えたら、システムパッド本体にパッドカバーをかぶせてください。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺の物に誤ってくっ付けないようご注意ください。



調節パッドを剥がす際、本体側のパッドをちぎってしまわないようご注意ください。剥がした調節パッドは、お住まいの地域の「軟質ポリウレタンフォーム製品」の分別ルールにしたがって廃棄してください。

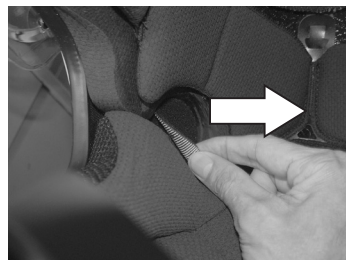
通信システムの取り付けについて

システムネックをめくると、通信システムの余ったコード等を収めることができる【通信システム専用ポケット】が見えます。通信システムのコード等を収める際は、出っ張ったり、きつく折り曲げないようにご注意ください。



スピーカーベースについて

スピーカーベースが必要ない場合には取り外してご使用ください。スピーカーベースは面ファスナーで内装に止められているので、下側を摘んで引っ張れば簡単に外すことができます。

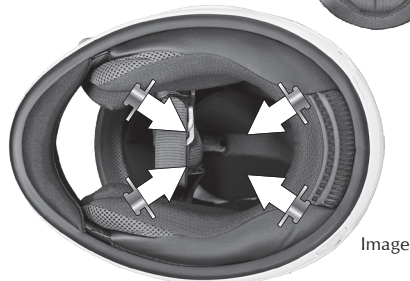


ヘルメットに通信システムを取り付ける際は、お買い求めの通信システム取扱説明書、または通信システム販売メーカーのWebサイトをご参照になり、適切な位置に取り付けてください。

P システム内装の着脱

TX-V EP システム内装の外し方

①内装は四つのホックで衝撃吸収ライナの内面に取り付けられています。それぞれのホックになるべく近い枠（保持プレート）を持ち、ヘルメットの中心に向けて引っばってホックを取り外してください。



それぞれのホックを引っばる向き

②ヘルメット内で半球形に開いているシステム内装を折り畳んで取り出します。

外したシステム内装は、折り癖がつかないように広げておいてください。



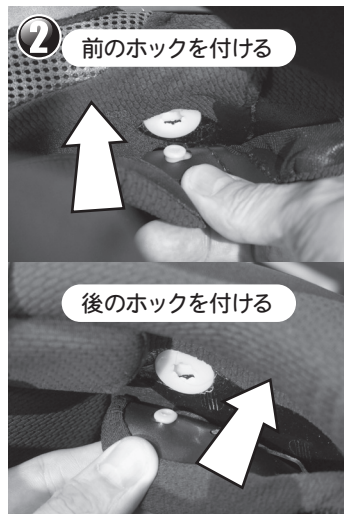
TX-V EP システム内装の付け方

①内装の前後の向きに注意して、半球形に開いているシステム内装を折り畳んでヘルメット内に収めます。そして、ヘルメットの内部で元の形に広げます。



②内装のそれぞれのホック位置を合わせて押し込みます。

かぶり心地に影響を及ぼしますので、システム内装取り付け完了後に内装の歪みを必ず整えてください。



ホック及び内装枠の破損防止のため、全てのホックを外してから内装を取り出してください。また、乗車用手袋をヘルメット内に入れると、手首部分の面ファスナーが内装に貼り付いたり、手袋に設けられたプロテクターやエアダクト類がヘルメットの内部を傷める場合がありますのでご注意ください。

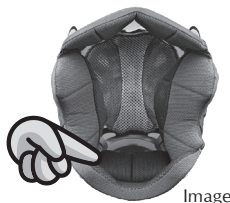
調節パッドによるシステム内装のサイズ調節

システム内装には、容易に剥がすことができる【調節パッド】が予め取り付けられています。この調節パッドを取り除くことで、システム内装のサイド部を片側で約5mm薄くすることができます。

①システム内装のサイドパッド（側頭部にあたる部分）の外側のポケットをめくります。



※システム内装のリアパッド（後頭部にあたる部分）も同様に剥がすことができます。



②調節パッドは、本体パッドにストライプ状に部分接着されているので丁寧に剥がしてください。その後ポケットを閉じてシステム内装の形を整え、ヘルメットに取り付けてください。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺の物に誤ってくっ付けないようにご注意ください。



調節パッドを剥がす際、本体側のパッドをちぎってしまわないようにご注意ください。剥がした調節パッドは、お住まいの地域の「軟質ポリウレタンフォーム製品」の分別ルールにしたがって廃棄してください。

Q ヘルメット内装サイズの調節

■標準設定の内装ではヘルメットがきつい方やゆるい方のため、厚さの異なる内装に替える事で、頭周りと頬部のサイズ調節が行えます。システム内装とシステムパッドの厚さの異なるオプションが用意されていますが、交換される場合には、お持ちのヘルメットの標準設定をご参照のうえ、お選びください。

システム内装による頭回りの調節

【54と55 - 56】そして【57 - 58と59 - 60】には其々共通の内装枠が使用されています。この事により表のような頭回りの微調整が行えます。内装枠サイズはギリシャ数字（Ⅰ～Ⅴ）で表示されています。この枠の数字が異なると取り付けることができませんのでご注意ください。

ヘルメットサイズ	内装枠サイズ・パッドの厚み		
54 cm	Ⅱ-7mm	Ⅱ-10mm	
55 - 56 cm		Ⅱ-7mm	Ⅱ-10mm
57 - 58 cm	Ⅲ-7mm	Ⅲ-10mm	
59 - 60 cm		Ⅲ-7mm	Ⅲ-10mm
61 - 62 cm		Ⅳ-7mm	
フィット感	ゆるくなる	標準設定	きつくなる

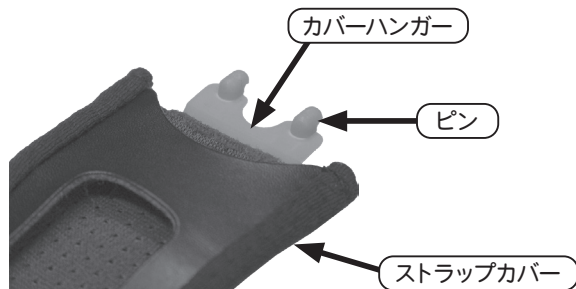
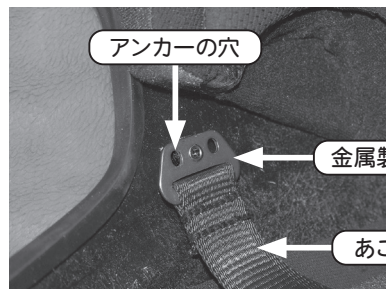
システムパッドによる頬部の調節

システムパッドは内部のウレタンパッドの厚みが異なる以外は全て共通です。基本的に全サイズのヘルメットに、どの厚さのシステムパッドも取り付けることができます。しかし、標準設定よりも極端に厚くしたり薄くしたりすると、ヘルメットのかぶり心地を大きく損なう場合があります。

ヘルメットサイズ	システムパッドの厚み		
54 cm	20 mm	25 mm	
55 - 56 cm	15 mm	20 mm	25 mm
57 - 58 cm			
59 - 60 cm	12mm	15 mm	20mm
61 - 62 cm			
フィット感	ゆるくなる	標準設定	きつくなる

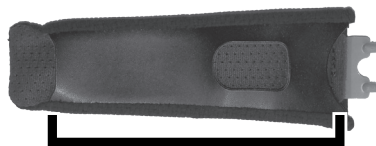
R ストラップカバーの着脱

TX-V EP ストラップカバー関係の各部名称



TX-V EP ストラップカバーの取り付け準備

まず、ストラップカバーの左右表裏の確認を行います。ストラップカバーは合成皮革が縫い付けられている方を【裏】とします。



お客様にお知らせ

ストラップカバーの大きさはヘルメットサイズによって異なります。本書53ページをご参照になり、お買い求めの際にはご注意ください。

TX-V EP ストラップカバーの外し方

■予め、左右のシステムパッドを外しておきます。

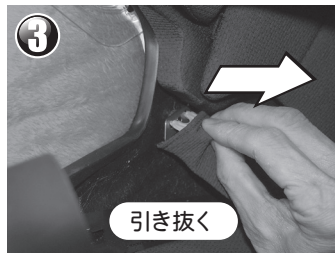
(本書34ページ参照)

①あご紐基部の金属製アンカーには、ストラップカバーの取り付け具【カバーハンガー】の返しがついたピンが差し込まれているので、カバーハンガーの下をしっかりと持ちます。

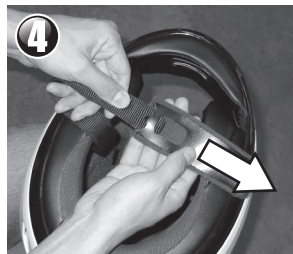
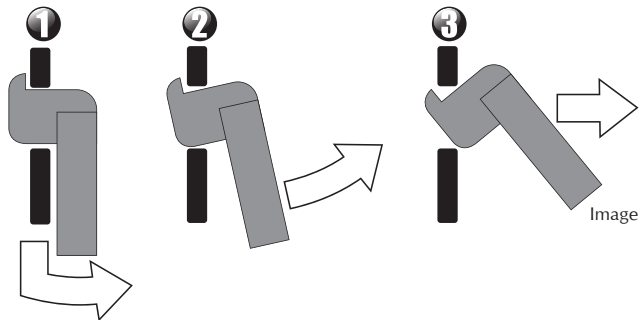


②ピンの部分を起点として、カバーハンガーを持ち上げます。

③ピンが穴から外れたら、金属製アンカーからピンを引き抜きます。



④ストラップカバー全体をあご紐から抜き取ります。



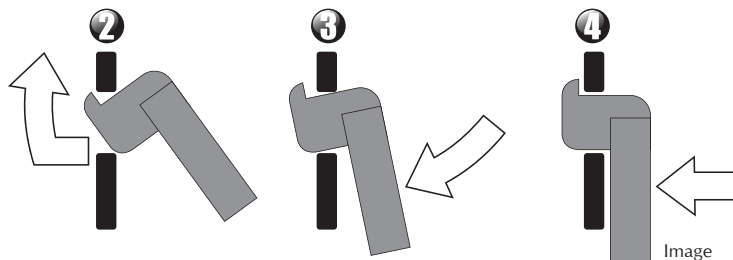
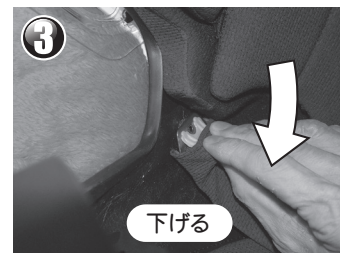
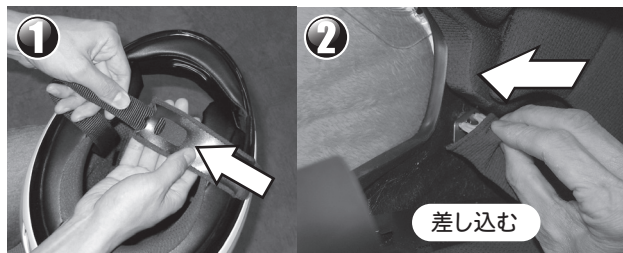
TX-V EP ストラップカバーの付け方

①ストラップカバーをあご紐に差し込みます。

②金属製アンカーの二つの穴に【カバーハンガー】のピンを差し込みますが、返しを先に通すために少し斜めにします。

③ピンの返し部分が入ったらカバーハンガー全体を下げます。

④カバーハンガーを金属製アンカー側に押し付けてピンを完全にはめ込みます。



お客様にお知らせ

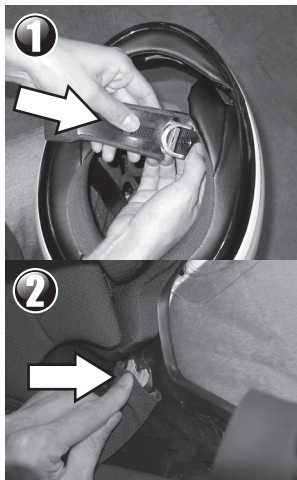
ストラップカバーの大きさはヘルメットサイズによって異なります。本書53ページをご参照になり、お買い求めの際にはご注意ください。

Dリング側ストラップカバーの取り付け

- ①ストラップカバーの裏（合皮側）を手前に向け、Dリング側のおご紐をストラップカバーに差し込みます。
- ②カバーハンガーのピンを、金属製アンカーの穴に差し込みます。（本書46ページを参照）



カバーの途中に開いている穴に指を入れてDリングを送り出すと、楽に通すことができます。

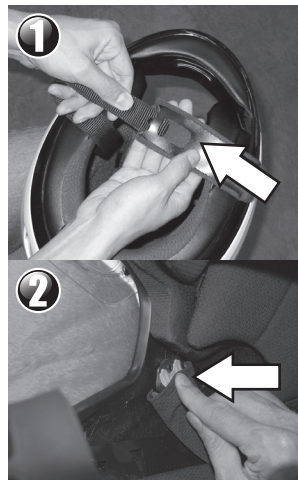


右側ストラップカバーの取り付け

- ①ストラップカバーの裏（合皮側）を手前に向け、右側のおご紐をストラップカバーに差し込みます。
- ②カバーハンガーのピンを、金属製アンカーの穴に差し込みます。（本書46ページを参照）



おご紐は、刻印の入ったスナップの頭を手前に向けてカバーに通します。



ストラップカバー未装着の状態でヘルメットを使用しないでください。また、ストラップカバーの取り付けが不十分だと、ヘルメットをかぶる際にストラップカバーが外れるおそれがあります。

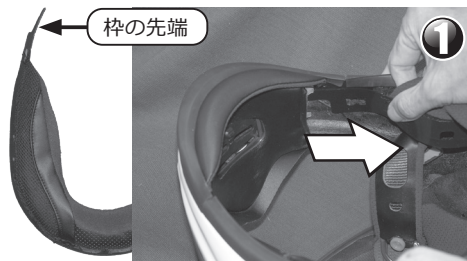
S システムネックの着脱

TX-V EP システムネックの取り外し

予め、左右のシステムパッドを外しておきます。(本書34ページ参照)

①センタパッドの裏に差し込まれているシステムネックの【枠の先端】を、左右とも抜き取ります。

②システムネックの中央をしっかりと持ち、横に3~4 cmほどひねります。すると、システムネックが移動してロックが解除されるので、システムネックを安全に取り外すことが可能となります。



ネックの中央をしっかりと持つ。



横にひねるとネックがスライド。

※ひねる方向は、左右どちらでも可能。



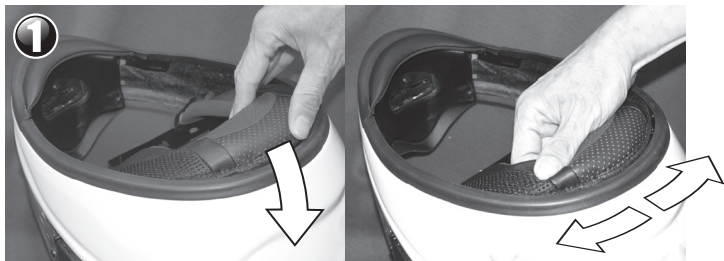
ネックを持って取り外します。



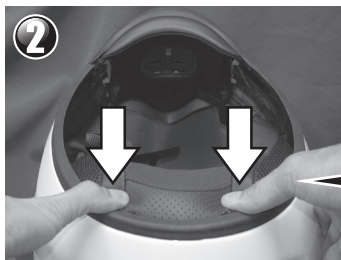
システムネックを外す際は、縫製のほつれ防止のためシステムネックを枠ごとしっかりと持ってください。また、ヘルメットを持ち歩く際にシステムネックを持つと、システムネックが外れてヘルメットが落下するおそれがあります。

TX-V EP システムネックの取り付け

①システムネック両端をすぼめ、ヘルメット内に一旦入れます。そして、ライナと帽体の隙間にシステムネックの枠を均等に差し込み、システムネックの左右のズレを修正しておきます。



②次にシステムネック後部のフックの取り付けを行います。左右のフックを上から押し込んで取り付けます。



フックの位置

取り付け後にシステムネックを少し引っ張ってもフックが外れないことを確認してください。



OnePoint

③システムネックの【枠の先端】をセンターパッドの裏に差し込み、システムパッドを取り付けければ作業終了です。



枠の先端が正しく差し込まれていないと、ヘルメット内に露出して皮膚に接触するおそれがあります。



Attention

お客様にお知らせ

システムネックの大きさはヘルメットサイズによって異なります。本書53ページをご参照になり、お買い求めの際にはご注意ください。

T ヘルメットのお手入れ

パーツ類のお手入れ (中性タイプの台所用洗剤をご使用ください)

バイザーやワッシャー、ダクトなどのパーツ類は、洗剤を適量の水で薄め柔らかい布にふくませてパーツ表面の汚れを拭き取ってください。



お手入れにアルコールを含むクリーナー類やシンナー系の溶剤、ガソリンなどを使用すると、塗装面や素材が侵されますので絶対に使用しないでください。



シールドのお手入れ (中性タイプの台所用洗剤をご使用ください)

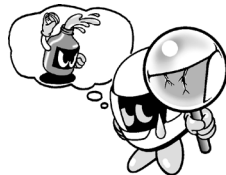
シールド表面にオイルやワックス、ガソリンなどが付着すると、目に見える変化がなくとも素材が侵されてしまいますので、シールドの定期的なクリーニングをお勧めします。クリーニングは、薄めた中性洗剤でシールド表面の油分などを洗い流し、流水で十分に濯いでから柔らかい布で水分を拭き取ります。



シールド素材は耐衝撃性に優れたものですが、アルコールを含むクリーナーやシンナー系溶剤、ガソリンなどが付着した場合や、車窓用の撥水剤などを使用した場合、素材が侵されシールドにヒビ割れが発生し、万一の衝撃時に破損するおそれがあります。



シールドに虫などが付着して硬くなってしまっている場合は、シールドを真水に浸けて柔らかくしてから、薄めた中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で拭き取ってください。尚、中性洗剤を薄めた液中にシールドを長時間浸け込むのは絶対にお止めください。

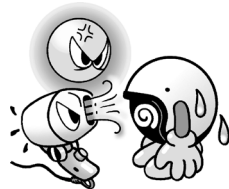


ヘルメット本体の洗ひ方（中性タイプの台所用洗剤をご使用ください）

ヘルメット本体を丸洗いする時は、ヘルメットからバイザーやシールド、着脱式内装を取り外してヘルメット全体を中性洗剤を少量溶かした水に浸し、ヘルメット表面、あご紐、内装のメッシュを洗い、その後真水で充分に濯ぎ、ペーパータオルなどで水分を取り除き、日陰の風通しの良い場所に、ヘルメットを逆さまに吊して自然乾燥させてください。



乾燥させる際、50℃以上加熱したりヘルメットを長時間日光にさらし続けると、ヘルメット内の衝撃吸収ライナーが熱や太陽光に含まれる紫外線により変形、変質し、衝撃吸収性が失われてしまいますのでご注意ください。



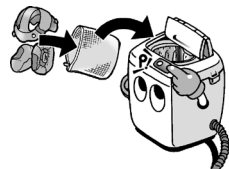
内装のお手入れ（中性タイプの洗濯用洗剤をご使用ください）

フルシステム内装（システム内装・システムパッドのカバー・あご紐カバー・システムネック）をヘルメットから取り外して手洗いを行います。システム内装は内装の枠を折り曲げたり変形させないよう、やさしく洗ってください。そして、洗い終わったら水でよく濯いで水分を取り除き、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。



EP仕様の内装は、路面に直接ヘルメットを置いたり、内装生地よりも硬い物で強く擦ったりすると、ほつれや毛羽立ちが生じる場合がありますのでご注意ください。尚、内装にほつれや毛羽立ちが生じた場合は新しい内装をお買い求めになり、交換を行ってください。

内装を洗濯機で洗う際は、必ず「お洗濯ネット」に入れ、ソフト・弱・手洗いなど素材に負担をかけないモードを選択してください。また、衣類乾燥機や洗濯乾燥機による内装の乾燥につきましては、その乾燥温度が50℃以上に達する場合はご使用頂けませんのでご注意ください。※



※乾燥温度については、衣類乾燥機や洗濯乾燥機に付属している取扱説明書をご確認ください。

U オプションパーツリスト

パーツ名		部品番号	
VAS-A MV シールド	クリアー	031100	
	セミスモーク	031101	
	スモーク	031102	
VAS-A MV ピンロックシート120XLT (クリアー)		011084	
TX-V バイザー	グラスホワイト	091344	
	グラスブラック	091345	
	フラットブラック (艶消し)	091346	
	アルミナシルバー	091347	
	ディスカバリー	青	091370
		赤	091371
		白	091372
TX-V ホルダー		021085	
TX-V バイザーワッシャー (TX-V バイザーネジ付)		021080	
VAS-A シールドベース		021075	
TX-V バイザーネジセット		111010	
スーパーアドシスネジセット		112511	
VA ノーズディフレクター		082365	
ES チンカパー V		075711	
MX ゴーグルスナッパー (2個入り)		白	092175
		黒	092176

パーツ名		部品番号
デルトダクト6	グラスホワイト	104830
	グラスブラック	104831
	フラットブラック (艶消し)	104832
	アルミナシルバー	104833
	スモーク	104836
AR スポイラー	グラスホワイト	102130
	グラスブラック	102131
	フラットブラック (艶消し)	102132
	アルミナシルバー	102133
	スモーク	102136
フロントロゴダクト	白 / グレメタ	102105
	黒 / グレメタ	102104
	黒 / ライトグレメタ	102103
	シルバー / グレメタ	102111
TX-V マウスシャッター (ネジ付)	グラスホワイト	105320
	グラスブラック	105321
	フラットブラック (艶消し)	105322
	アルミナシルバー	105323
	メタシャイン黒	105326
	アフリカ白	105327

※アライヘルメットではヘルメットやパーツ類のお客様への直接販売を行っていません。お客様のお近くのオートバイ用品取扱店にてご注文及びご購入ください。オプションパーツの価格、記載されていないパーツにつきましては、アライ製品のカatalogやアライヘルメットのホームページをご参照ください。尚、通信料はお客様のご負担となりますので、予めご了承ください。

内装生地のコットン化について

パーツ名			部品番号
TX-V EP システムパッド	12mm		055382
	15mm (59-60) (61-62)		055383
	20mm (55-56) (57-58)		055384
	25mm (54)		055385
TX-V EP システム内装	Ⅱ -10mm (54)		075471
	Ⅱ -7mm (55-56)		075472
	Ⅲ -10mm (57-58)		075475
	Ⅲ -7mm (59-60)		075476
	Ⅳ -7mm (61-62)		075479
TX-V EP システムネック	小・中	(54) (55-56) (57-58) (59-60)	075462
	大	(61-62)	075463
TX-V EP ストラップカバー	小・中	(54) (55-56) (57-58) (59-60)	075465
	大	(61-62)	075466

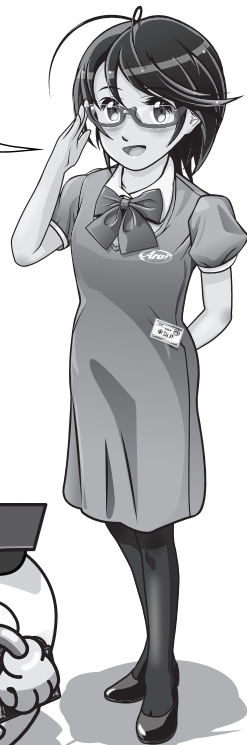
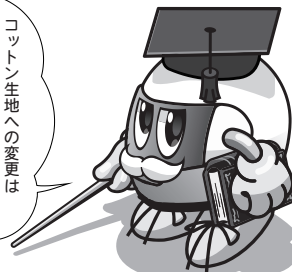
ヘルメットの内装生地には化学繊維が使われています。しかし、天然素材以外は使用できないお客様のためにコットン（綿100%）内装の製作ご相談も、アライヘルメット品質管理課で受け付けています。

アライヘルメット品質管理課

☎048-645-3661

受付時間：午前9時～午後5時（土日、祝日を除く）

コットン生地への変更は
着脱式内装にのみ行われます
なおコットン内装の色は
標準内装とは異なりますので
予めご了承ください





Racing Specialities



Racing Specialities



株式会社 アライヘルメット

〒330-0841 埼玉県さいたま市大宮区東町2-12

☎048-641-3825

受付時間：午前9時～午後5時（土曜・日曜、祝日を除く）

ヘルメットに関するご質問ご相談は品質管理課まで。

☎048-645-3661

受付時間：午前9時～午後5時（土曜・日曜、祝日を除く）

SGマーク被害者救済制度

SGマークは、製品安全協会が定めるSG基準に適合するものとして認証された製品に表示される安全・安心マークです。SGマーク付きヘルメットの欠陥により人身事故が発生したときは賠償措置が講じられます。ただし、プロオートバイレースやサーカス等の特殊な使い方をしている場合や、シールド等の付属品の欠陥による事故の場合の負傷等は、賠償の対象になりません。また、SGマークには、ヘルメットの耐久性等を考慮して、「購入後3年間」との有効期間を定めています。3年以内であっても、一度でも衝撃を受けたヘルメットや、改造されたヘルメットは外観に異常が無くても性能が低下していますので絶対に使用しないでください。

一般財団法人製品安全協会

〒110-0012 東京都台東区竜泉2-20-2 ミツホビル 三ノ輪2階 電話番号03-5808-3300（代表）

消費生活用製品PLセンター 電話番号03-5808-3303

受付時間9：30～12：00 13：00～17：30（土日祝は休み）



R50731-j9
Printed in Japan



FUKUYAMA PRINTING
福山印刷株式会社